

# 熊本市子ども会 ジュニア&ユース・リーダー座談会

後編

子ども会活動を支えるジュニア・リーダー(以下「ジュニアL」)やユース・リーダー(以下「ユースL」)。後半では、活動の中での彼らの工夫や苦勞、そして成長の様子をお伝えします。



ぶつかる壁、乗り越える工夫 ~現場で感じた難しさと成長の瞬間~

## ——活動の中で苦勞したことはありますか？

- 前畑)「初めてのキャンプではこどもたちをどうまとめればいいのか、難しくて悩みました。みんな元気で、どんどん色々なところに散らばっちゃうので、誰がどこにいるかの把握は苦戦しました。」
- 稲田)「ちょっと大げさですけど、私たちは小学生の命をお預かりしてキャンプをしているので、班に付くリーダー二人のうちどちらかは、ちゃんと全員を見てるようにしないとイケないんです。彼(前畑さん)は入って半年でその役をやらなければならなかったもので、相当大変だったと思います。」
- 前畑)「やったらいけないことを『ダメ』と言うだけでは伝わらないので、なぜダメなのかの理由を話したり、言い方を工夫するようにしたら納得して動いてくれるようになりました。」
- 内田)「元気すぎる子や話を聞いてくれない子もいて、困ることもあります。でもユースLの先輩に相談するとすぐ助けてくれるので安心できます。経験が浅いジュニア同士で活動する場面では、次の動きが分からず戸惑うこともあり、経験不足だなあって痛感しました。」

## ——キャンプの運営はジュニア・リーダーがやるんですね。

加藤)「今年の夏キャンプでは、チーフを担当しました。全体の流れを把握して、みんなを誘導する役割です。そのとき使う「スタッフノート(進行表)」は、ジュニアL全員で考え、僕がパソコンでまとめて作成します。当日は変更も多く、施設との打ち合わせや時間調整など、自分たちだけでは判断できないこともありましたが、ユースLに相談して助けてもらいました。



びっしりと書き込まれたスタッフノート

積)「ユースLとしては、ジュニアLが悩んでいるときにそっと声をかけたり、アイコンタクトで『大丈夫だよ』と伝えたりします。前に立つジュニアLが安心して動けるように支えるのがユースLの役割です。」

## ——学校や仕事との両立はありますか？

加藤)「学校の行事や課題も多いですが、自分はチーフだし、工夫して時間を作って活動しています。そういう経験も意味があると思って続けています。」

内田)「テスト前でも息抜きのような気持ちで参加しています。活動自体が好きですし、進学にも役立つと思っています。」

前畑)「部活と重なることもありますが、ここでの経験は他では得られないので、できるだけ参加しています。」

積)「社会人になると、参加できなくなることが多いですが、最低1人はユースLが参加してジュニアLを見守っています。仲間がいるのは心強いです。」

活動が育てる、自分らしさ ~人前で話す力、つながる喜び、そして未来へ~

## ——活動を通じて役立っていることはありますか？

内田)「元々は人前で話すのが苦手でしたが、レクリエーションで前に立つ機会が増えて、少しずつ自信がついてきたと思います。」

川内)「自分も引込み思案でしたが、ジュニアLに入ってから前に出るのが苦ではなくなり、むしろ積極的にリーダーに立候補するようになりました。」

加藤)「学校でのプレゼンも、定例会で慣れているので緊張せず、自然に話せるようになっていきますね」

前畑)「ジュニアLやユースLのみんなとのつながりができて、友達がたくさん増えました。派遣先の地域の方やこどもたちなど、人との接し方も身に付いた感じがします。本当にやってよかったと思います。」



定例会の様子

——最後に、これからジュニアを目指す人へのメッセージをお願いします。



ジュニア・リーダーを温かく  
見守るユース・リーダー

加藤) 「仲間と一つの目的に向かって一緒に動くことは、大変だけど、かけがえのない時間と経験です。夏のキャンプの準備とかも、夜中にみんなで電話して、笑いながら作業するのも楽しいです。」

内田) 「話すのが得意じゃなくても、こどもが好きなら楽しく活動できます。」

川内) 「リーダーにならなかったら、他校の人や小学生と関わる機会はなかったです。活動を通して、そういうつながりがたくさん増えました。きっと将来にもつながる経験になっていると思います。」

積) 「大変なこともあったけれど、かけがえのない仲間に出会いました。社会人になっても、定期的に集まれるメンバーがいるというのはとてもありがたいです。ずっとこの関係性を続けていきたいと思っています。」

稲田) 「中高生でキャンプの運営に関われる機会ってなかなかありません。他の都市を見ても、熊本市のようにここまで任せてもらえるところは少ないです。だからこそ、自信を持って参加してほしいですね。」

皆さんの言葉から、活動を通じて得られる「自分らしさ」が伝わってきました。こどもたちと遊ぶだけでなく、どうすれば相手に気持ちよく関わってもらえるかを考えたり、企画を立てて準備を進めたり、時には金銭面や運営の調整まで担ったりする。そんな経験は、普段の学校生活ではなかなか得られないものです。

仲間と支え合いながら、楽しみながら、自然と力を身につけていくジュニア、ユース・リーダーたち。人とのつながりが希薄になりがちな今だからこそ、地域の中で人と人をつなぎ、場をつくっていく姿はとても頼もしく感じられます。

この活動で過ごす時間は、きっと彼ら自身の未来にも、地域の未来にも、大きな力になっていくはずです。

